

## 心臓血管外科 初期研修プログラム

### 必ず習得するアウトカム

1. 心臓血管疾患の病態を理解し、手術適応・手術方法の原則を習得する。
2. 呼吸循環動態を理解し、全身管理の考え方を習得する。
3. 外科手技の基礎的理論を理解し、その基本的手技を習得する。
4. 外科診療チームの一員としてふさわしい態度を習得する。

### 研修目的

心臓・血管疾患の病態および診断と治療の基礎（原理原則）を習得し、循環器疾患治療に対する理解を深めるとともに、チーム医療における役割を理解する。

### 研修目標

#### ◇ 一般目標

1. 血行動態の基礎的知識、主要な循環器疾患の診断と治療の基本を学ぶ。
2. 手術前のリスク評価、手術方法、および術後の全身臓器管理についての概略を理解する。
3. 循環器救急で必要な外科的緊急処置の基本的技術を習得する。
4. チーム医療において必要な non-technical skills(コミュニケーション能力, リーダーシップ, セルフマネジメント)を習得する。

#### ◇ 行動目標

1. 入院患者の診療を行い、術前検査と治療方針を立てることができる。
2. 外来救急患者の初期診療を行う事ができる。
3. 心臓血管疾患の画像検査法の選択と画像診断ができる。
4. 術後患者の管理法について理解し、治療方針を立てることができる。
5. 消毒法、感染防止対策、縫合、抜糸等の基本的外科処置ができる。
6. 侵襲的処置の適応を理解し実践できる。
7. 標準的救命救急措置法を理解し実践できる。
8. チーム医療において円滑なコミュニケーション、適正なリーダーシップ、適切なセルフマネジメントを実践できる。

#### ◇ 研修期間中に経験・参加可能な手術手技

心臓大血管手術（CABG, 弁置換手術, 大動脈瘤手術など） 30 例

血管疾患（腹部大動脈瘤, 下肢虚血など） 10 例

ペースメーカー治療 20 例

スワンガンツカテーテル管理 30 例

胸腔ドレナージ 10 例

## 研修方略

以下の項目を指導医の監督指導のもと、日々の臨床研修で実践する。

- ・ 医療面接法、診察手技
- ・ 術前カンファレンスや ICU 回診での症例提示
- ・ 外科手技（縫合・抜糸・消毒・胸腔ドレナージ・点滴・動脈静脈ルート確保）
- ・ ICU での呼吸循環管理

## 研修評価

以下の項目を研修期間中に観察および口頭試問などで評価

- ・ 医療面接法、診察手技、症例提示
- ・ 基本的外科手技、感染防止対策
- ・ 術前診断法、術後管理法
- ・ Non-technical skills

以下の項目を、研修終了時にレポートで評価

治療方針・手術法の原理

## 週間予定表

	午前	午後
月	循環器合同カンファレンス 病棟回診、外来 全身麻酔手術	全身麻酔手術、回診
火	循環器抄読会 病棟回診 全身麻酔手術	全身麻酔手術、回診
水	術前カンファレンス 病棟回診、外来 局所麻酔手術	外来、回診
木	手術報告カンファレンス 病棟回診 局所麻酔手術（全身麻酔手術）	（全身麻酔手術）回診
金	勉強会（研究など） 病棟回診、外来	外来 術前合同カンファレンス 回診

### 指導責任者および指導医

指導責任者：川本 俊輔（かわもと しゅんすけ）平成5年卒  
心臓血管外科科長  
心臓血管外科専門医・修練指導医  
日本外科学会専門医・指導医  
臨床研修指導医

指導医：清水 拓也（しみず たくや）平成10年卒  
心臓外科学会専門医  
日本外科学会専門医  
日本脈管学会脈管専門医  
日本血管外科学会認定血管内治療医  
臨床研修指導医

：皆川 忠徳（みながわ ただのり）平成16年卒  
心臓外科学会専門医  
日本外科学会専門医  
腹部大動脈瘤ステント施行医

〃：松岡 孝幸（まつおか たかゆき）平成24年卒  
日本外科学会専門医

### 学生（4~6年生）や他科研修中研修医のカンファレンスの参加の可否

参加可 ・  参加不可

### 研修医発表会、学会発表に対する指導体制

指導医の指導の下に、担当患者の症例をまとめ、積極的に学会・研究会での発表を行う。

### 同時期に受け入れ可能研修医数（1クール：3ヶ月）

1 名/1クール